



ひろひだより

NO.13. 2017. 3. 17

絵本「ちいさなうさこちゃん」で知られるオランダの絵本作家 フィック・ブルーナさんが先日亡くなりました。赤ちゃんも子育てもよくわからないこの新米母さんが44年前に書いたのは、たぶりの絵本タイムでした。0歳児のお気に入り「うさこちゃん」でした。シンプルな絵は赤ちゃんにとってわかりやすかったのかも知れません。わか家のうさこちゃんシートはわか子たちと家庭文庫に通って来ていた子どもたちに競升継がれ、ぼろぼろになった今も、修理されながら、孫たちの間を回っています。ブルーナさんの死は、私の子育ての始りとも思い出す時となりました。子育ての原点のようなことと思い出していました。

幼稚園の子どもたちにもたぶりと絵本を手渡したいと思いつながら、東京で仕事をしていました。親子が解放される場所はどこにあるだろう。そのためにどんなことが「子どもだろう」と考えながら、何か大きな力に導かれるように、軽井沢の森のようちえんを開いてしまいました。たぶりの自然とたぶりの絵本があれば何か変わると思っていました。2歳児でも言いやすい「ひろび」という名前は、育ち家の次女 日菜子さんがアイデアをくれました。ひろびマークの小鳥に代表される自然と、「長くつれたのピッピ」に代表される絵本を意識していました。

生まれたての赤ちゃんだったひろびが家族に守られてながら、泣くたびに世話をされ、心地よさと安心感を持ちながら育っていました。「発見して感動して」の一歳。「走って転んで」の二歳。自己表現もできるようになる三歳。……そして10歳になつてしまいました。11歳からどう歩むだろう。どう歩めばいいだろう。肩に力が入っていました。考えて、考えてずっと考えていた一年でした。閉じ込められた空間でない森で、場のとりゆきにゆたかなやみ自然の広がりの中で肩の力が抜けていきました。子どもたちと雪の上の糞や足跡をたたくしつから追っている、ゆったりした時間が嬉しくてたまりませんでした。「心ってたしかに育つものなんだ……」と思える育ちの瞬間に出会い、深い喜びを何度も感じました。ゆつりとと思う存分、体と心とを解放し、伸ばしてある子どもたちと、一緒に生活しているから私も自然体を取りもどしてしまいました。

2月のある日、崖登りをしているもうすぐ頂上という所ぞ、私の先を登っていた空太くんが振り返り、何も言わずにサリサリ手をさし出し、引っぱってくださうとしました。そして数日後、同じような場面ぞ、礼くんが「手を貸さうか」と、言いつながら、手をさし出してくれました。そしてしばらく後、上に到着して吐き出し、礼くんが「がんばれよーおつかい！」、「大丈夫か？おつかい」と大きな声で応援してくれました。まだ若い人達と同じように登っているおつかいおつかい、もしもたら、年老いているから心配してくれているのかも知れませんが、三人の配慮は、私に感動しました。子どもも大人も関係ない、信頼関係を築きながら、子どもも大人も助け合っている場がひろびの理想だと思いました。そして保育という仕事は、本当にシンプルで、いいね！子どもたちを後押しし、ひろびの保護者の方たちと、歩む。10年前と全く同じで、何も身負うことはないのだと思いました。

たぶらちよち歩き頃のひろびと違っているのは、自然の中での保育の可能性を実感しています。子どもの育ちの場としての可能性は大きいと思いつ。そして、親子のためにと始めた森のようちえんだけれど、保育者が前例や先入観や思い込みから解放されました。

来月から11年目。今更と同じように子どもたちも保護者の方も保育者も、その都度感情を味わい、放すことを大切にしながら、心の自由を求めて歩いていきたいと思いつ。アイルランドのケルトのお祭りぞ歌われた歌の言葉が心に残っています。

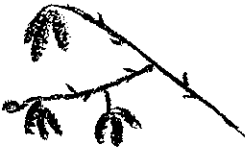
きっとあなただも 心を開いて会話をしよ
魂が通じ合える。 たくさんの人と出合えるわ。

武蔵くん、蒼空くん、遙人くん、たつめさん、真実くんは、もうひとつ大きな世界へ歩き出しました。それぞれの「心が乗っている魔法の言葉」を見つけてあげよう。

奏人くん、朝太郎くん、どこにいても牽せていて下さい。保護者の皆さま、この一年も応援して下さい。信頼を寄せて下さい。ありがとうございます。又、この度は、皆さまから、記念としてカーゴネットを頂戴いたしました。来年度10月の森づくりの日に取り寄せさせていただきます。きっと子どもたちの楽しい遊び場になると思いつ。ありがとうございます。

本日お褒めいただき「育ちのカード」は、スタッフみんなで何度も話し合い、書き込んでいきました。力不足の表現もありましたが、また来年に引き継がせて下さい。ひろび一つ大きな喜びと共に登壇してくる子どもたちと会えるのを楽しみにしています。 眞弓

ああきいくみだより



3月、残るああきいくみの日は残りあと5日。朝のあつまりのあ名前呼びをああくりさんにやってもらうことに。最初の木曜日には武蔵。次の月曜日は遙人。すると蒼空「明日は俺ね。」とやる気満々。翌日の火曜日の日もあ願うことになりました。その翌日から毎日、真実、なつめと続き、また再び武蔵へ。ただ今2巡目です。

2月の最終週から、ついにまっぴくりも混じえでのオペレッタが始まりました。毎回、演じる役を替えてじっくり自分のやりたい役を決めています。まっぴくりの人たちも実に堂々としたもの。人気は海賊役ですが、ある日、穂岳一人だけ。けれど大きな声でしかり海賊の歌を歌い、翌日は泉の精に。優雅なメロデーを空太、大夢の男子三人で美しく歌い上げました。歌の大好きないろははこの泉の精があ気に入りました。それでもコンドルやゴリラをやればしかり演じています。当日は何の役を選ぶのでしょうか。みんな、明日は何をやろうかといういろいろ考え「明日はぶくろう!」「コンドルにする!」と遊びの中でも会話が飛び交い、オペレッタの歌を口ずさんでいます。

火曜日の森も大分、暖かくなってきて地面がドロドロの日が続く。足元の悪さを避けてしほしほ紅葉谷へ遊びに出掛けました。最近、崖に真、先に上かて行くのは悦己、植木さくら。他のまっぴくりもそれに続き、さらに橙季もみんなの後を追いかけて来ます。ああきいくみて崖登りを始めたころは恐る恐る登っていた人たちが、このころ本当に意欲的に崖を登る姿が見られます。涙もあたけれど、たくさんの崖登りの経験が子どもたちの中に石確実に積み重なっているのでは。以前使っていた火曜日の崖から少し右側の斜面を登り、紅葉谷へ下る崖ルートが出来ました。結構な急坂。崖登り得意の大樫を先頭に、天音、羽路斗、大夢が続きます。その後ろから悦己、植木さくらが、自分のペースでじっくり登り、やがて頂上から「あーい!」と手を振ります。紅葉谷大好きな碧空もその後を追いついてくると紅葉谷から「たたいまー!」と帰ってきます。

先日、4歳の誕生日を迎えた奏人。「4歳になったら何かしたい?」と聞くと「オレ、4歳になったら『あひまクラブ』に行くんだー。」これからやってくる変化を奏人なりに心の中で受け取め、いろいろなことを考えているのでしょう。本当にまっぴくりの人たちは、話し合いでも自分の思いや考えをしっかりと話すことが出来る。毎回、面白い意見が沢山出て来ます。涙にたいてしまうこともまだまだあるけれど、まっぴくりの人たちがこの一年で本当に成長し、このころ、自分の足でぐつと踏みだす姿を見ることが多くなりました。

去年の今ごろは、まっぴくりさんたちは今のどんぐりさんたちと同じだったのだなあと思う。ああきいくみにたつてからのこの一年の育ちに本当に驚きます。週3日のどんぐりの生活から、週5日火曜日で連続した日々を過ごすようになり、集団遊びやカリキュラム、話し合い、運動遊び、畑のあひま仕事、たくさんの経験の積み重ねが今のまっぴくりの姿を作り出しているのですね。家庭から離れた集団の中で過ごす経験が子どもにとって如何に大切なものであるのか。保育士にたつて初めての一年を終える今、改めてその大切さを痛感しています。そしてその時を子どもたちと共に過ごすことを嬉しく感じる一方で、私自身が一人の人間として子どもたちと共にあるということ、見守るということはどういうことなのか考え続け一緒に成長していきたいと心から願っています。

このああきいくみでの3年間をしっかりと過ごしたああくりさんたち。今度は火曜日の外の世界に飛び出していきます。5人がそれぞれにどんな出会いを持ち、火曜日のああきいくみにやってくるのか。それも楽しみ。春からのああきいくみは仕事や役割に意欲満々のくりが新ああくりに。ああくりになつてますますその力を発揮してくれるのではなつかしいかと思ひます。新しくなるまっぴくりはさらにああきいくみとしての出番が多くなり期待しつづけます。そしていよいよどんぐりさん、新まっぴくりに! 週5日のああきいくみデビューです。ああきいくみの仲間と一緒に、新しいこと、楽しいこと、ちよと大変なこともしつづけていこうね! 経験あしはようね!

(敬称略) 律子

三学期のエピソード

・敬称略

・おぼて日にち順

② = どんり

◎ = 手ごっくり

⊕ = スタッフ

武 武蔵	蒼 蒼空	遙 遙人	佑 佑つめ
寛 真寛	權 大權	礼 礼	望 望太
果 果乃	颯 颯希	咲 咲美	羽 羽路斗
天 天音	碧 碧空	いろは	穂 穂岳
橙 橙李	夢 大夢	悦 悦己	植 植木さくら
奏 奏人	永 真永	澄 澄怜	朝 朝太郎
英 英志	玄 玄太	折 折原さくら	渚 渚
友 友佳梨	沙 沙李		

三学期初日。雪が覆いつくされたひびの森が子供達を出席せられた。
 (武)(蒼)(遙)(寛)(望)はつぎあだり山道でそり三昧。(佑)(颯)(果)(いろは)はペーパーを
 変えて周回道路でそりの距離を競っている。(夢)(羽)(天)は周回道路と
 三人乗りで奇声をあげている。一緒に来る(悦)は横で見ている。(植)は放
 っていたそりを手にしませんが滑り出せない。(咲)がやってくる。(植)のそりを見て、
 『これ壊れてる』と②に告いで来た。②『手の所だけだから滑るのは大丈夫かも』と
 うとさっさと坂の上へ行きそりに乗る(咲)。(咲)『さくらちゃん、早く〜!』急いで坂を登
 って行く(植)。前は二人で滑っている。

朝から面白い氷やたら。雪の塊を集めている(望)と(寛)。そこへ(武)(蒼)も加わり
 これはヒゲラトフスの足の骨。これはネコノサカルスの指の骨と飾り始め見ている(植)
 『そりに乗せて(宛)に行く!』と面白い提案。宛りに歩いたものの(寛)『大まなのは宛るかも
 だけどから博物館にしよう』(武)『博物館に取柄もつと決山集めたい』と語り合
 ちこちから氷や雪の塊を集めて並べている。いつの間にか②たちも「入〜て」と
 入っている。(澄)(折)(朝)たちは(奏)『これは見るだけだよ。それだけだから』と説明
 している。(植)も『さういや好』『DVDに出てると加わっている。(寛)か②たち
 に『恐竜って見たことある?』(澄)(朝)『あー!』口をへるにほろほろも答えない
 (折)に(寛)『さくらちゃん、恐竜ってわかる?』昔いた大まの、TVとか本で見ることある
 決して答えずとしない表情の(折)。(朝)は、よく博物館というところからTMTMに
 楽しい雰囲気と一緒に味わっている。(澄)は『ここに並べたら?』『集ったお金も使って
 記念品と』と積極的な発言をして、置いて来たものを集めている。

ランチ後。薪棚の雪おろしで大まの雪山を踏み台にして薪棚の屋根に乗
 って遊びました。(武)はマサがすぐに上りました。(礼)(望)(果)(颯)がなかなか登
 なくて苦戦していると(武)はそと手を貸し引き上げていす。(武)が何の音もやらず
 ので助けてあげようも「あいかどう?」(望)のやりとりはない。おぼて日ととも自然。その
 後(天)が苦戦していると今度は(颯)が(天)の足を持ち上げて助けています。

②のお誕生日祝いの日。前に出ていす(悦)に『皆からの直向コーナー。植『大まのケーキ
 食べる?』(望)『いちごのケーキ』(植)『これもいちごケーキ食べた』②『悦くんは、今日が
 お誕生日。ちやんと今頃生誕たんんで、ト〜4係のメンバーにいた(望)『おれのおお
 いらんは死んじやった。さうみんなでお線香あげたんて〜』と(望)は、一日中、
 楽しんでいた(望)は、代の中は家族の死に何か合っている気が
 めぐってはいらぬ...

今日のデザートは、自しゃかぼちやを蒸したもの。少しデザートと出さるためにおぼて
 粗糖糖とシモンを振りかけた。(朝)は、シモンをやて完食したのには『シモンくま
 ~!』と突っ込んで、『いらぬ!』と言った(悦)に②『4枚にたすから少しだけ排気しな
 る?』とやかきかぼちやを口に入ると(悦)『お〜い!』と結局2回おぼて
 した。おぼてを食べている時は、他の人と『デザートいらぬ!』と話している(植)が
 最後の最後に来て、『デザート下い。かぼちや大まのから』何とか、大まの塊が残
 っていてセーフ! 完食した。

(天)(朝)(植)(悦)(夢)が朝の辱れのあとそり滑りを始めました。(夢)も家でそりを
 持ってきた加わっている。(朝)が(朝)にぶつかってはいす。すぐに(朝)『はるん、しんね
 朝』『しんねのりたためたんで、もう一つ言わすちやためたんで〜!』(朝)『しんねの
 りためたんで〜!』(朝)は必死に伝えているが(朝)は、怒らず。また(朝)
 の様子に苛んだ感じの(朝)『朝』とは、もう遊びたい!』②『もう一つって何?』(朝)
 『(朝)は、しんねに話さない』②『(朝)の話はしっかり聞いてあげて。しげくして(朝)は
 そり遊びの輪から外れ。』大権くん、さきにはしんね』と伝えている。

朝の辱れ前、②が手話をしつから乗乗を見ていすと、(折)『さくらちゃん、さくらちゃん?』②『い〜い
 (折)『さくらちゃん、さくらちゃん、さくらちゃん、さくらちゃん』②のそりたち、本日に乗る歌いす。

